

第18回日本作業科学セミナー 演題募集に関するお知らせ

2014年11月15日（土）、16日（日）に山口県宇部市にありますYICリハビリテーション大学校にて第18回日本作業科学セミナー（セミナーテーマ：作業科学とリーダーシップ）を開催いたします。4月下旬に参加申込受付を開始しますが、それに先立ちまして4月14日（月）より演題募集を開始いたします。演題は、作業・作業的存在に焦点を当てたものであり、作業科学の研究推進／学問的發展に寄与するもので、未発表のものに限ります。

皆様からのご応募を心よりお待ちしております。

1. 発表形式

口述、ポスターのいずれかの発表形式を選んでご応募ください。

口述発表：20分（発表：15分，質疑応答：5分）

ポスター発表

時間の都合で、発表形式の変更をお願いすることがあります。ご了承ください。

2. 演題募集期間・抄録原稿〆切

平成26年4月14日（月）～平成26年8月18日（月）午後5時まで

3. 応募方法

演題は、演題募集専用メール osseminar18endai@jssso.jp でのみ受け付けます。

下記の必要事項を添付形式（MS-WORD使用のみ受付可能）で送信してください。

尚、演題登録後、数日中に演題登録を承りましたとのメールを送らせていただきます。このメールが届かない場合はご一報ください。

詳細は、日本作業科学研究投稿規程 <http://www.jssso.jp/documents/JJOSrules-writingpoints.pdf> をご参照下さい

必要事項

- 1) 発表者氏名
- 2) 発表者所属
- 3) 連絡用メールアドレス
- 4) 抄録原稿（抄録作成要領を読み、抄録原稿作成例を参考に作成してください）
- 5) 発表形式（口述またはポスター）

注意事項

メールの「件名」には、発表者の名前を記して下さい。

ワードのファイル名には、発表者の名前を付けて下さい。

抄録を送信後、1週間以上たっても受領確認メールが届かない場合は、お手数ですが下記問合せ先までご連絡下さい。

4. 倫理的配慮について

抄録の作成に当たっては個人情報の取り扱いに十分注意し、発表に当たっては十分なインフォームドコンセントを得てください。プライバシーに関する守秘義務を遵守し、匿名性の保持に十分な配慮をしてください。抄録の本文には、倫理的に配慮した発表であることを明記してください。（例：倫理委員会の承認を得ている、文書で同意を得ている など）

5. 抄録作成要領

抄録原稿は、例を参考に日本語で A4 用紙 1 枚以内で作成して下さい（英文は採択が決まった方のみにご提出いただきます）。

引用文献は引用順に配列してください。

引用文献の表記の形式は、日本作業科学研究会投稿規程を参照してください。

URL: <http://www.jssso.jp/literature.html>

研究対象者や著作権などに対する倫理的配慮を充分に行った上で応募してください。

※尚、抄録集作成の都合上、レイアウト等の変更を応募者をお願いする場合がございます。

※抄録原稿作成例：原稿のイメージを作りました。参考にしてください。

6. 英文抄録

発表が決定した方に関しては、演題名・演者名・所属および抄録内容の英訳を付記していただきます。英訳抄録は、提出前に英文校正を済ませて下さい。

7. 応募演題の審査および採否のお知らせ

応募演題の採否は、本セミナー実行委員会の審査を経て決定いたします。採否の結果は、9月20日前後（予定）までに、e-mailにて応募者にお知らせいたします。

8. 演題登録・抄録に関するお問い合わせ、抄録原稿送付先

第18回作業科学セミナー 実行委員会事務局

e-mail: osseminar18endai@jssso.jp

声明書：作業科学 (MS 明朝 12 ポイント)

世界作業療法士連盟 (氏名と所属 MS 明朝 10.5 ポイント)

(本文 MS 明朝 10 あるいは 10.5 ポイント 1300~2000 字程度) 作業科学 (OS) は 1980 年代後半に、人間作業に関する知識を一般化するために、作業療法士によって創設された。OS は、人々が日常生活で行うことや、その作業は、健康や安寧にどのように影響するか、どのように影響されるかについて研究する。

作業科学者は、実証研究法と解釈的研究法を使う。OS 研究には、作業と発達の関係の探索や、どのように作業が一生涯を通して変化するかといった研究を含む。人々が日常の作業をどのように構成しているか、個人的社会文化的な作業の意味について強調するような研究である。個人的及び社会的な作業の機能、作業と人々の背景との関係、どのように人々は自分が行うことを経験するかも、OS 研究の関心となる。

OS にまつわるその他の関心事は、人々が自分の作業をどのように、いつ、どこで、なぜ決めるか、といったことがある。最近作業科学者は、経済や環境的問題、政府の政治方針が人々の作業の機会と選択に及ぼす影響を認識してきている。作業の中断、作業的公正、作業剥奪、作業隔離の影響は、近年探究されてきた概念である。

文献：World Federation of Occupational Therapists (2010). Position paper: Occupational science. WFOT Bulletin, 61, 17.

Position Paper: Occupational Science (Times New Roman 12 ポイント)

World Federation of Occupational Therapists

(本文 Times New Roman 12 ポイント 180~500 単語程度) Occupational science was founded by occupational therapists in the late 1980s to generate knowledge about human occupation. It studies the things that people do in their everyday lives and how those occupations influence and are influenced by health and wellbeing.

Occupational scientists use positivist and interpretive research methods. Occupational science research includes the exploration of the relationship between occupation and development, and how occupation changes over the life course. It addresses how people organise daily occupations, and the personal and socio-cultural meanings of occupation. The individual and societal function of occupation, the relationship between occupation and people's contexts, and how people experience the things they do are also of interest.

Other important concerns with in occupational science are how, when, where, and why people determine their occupations. More recently, occupational scientists have recognized the impact of economics, environmental issues and government policies on people's occupational opportunities and choices. The effect of disruption to occupation, occupational justice, occupational deprivation and occupational apartheid are concepts currently being explored.